

地域の専門職が力を合わせて患者を支える

在宅医療

まずは知りたい！

在宅医療とは

小児から高齢者まで、障害や病気などで通院が困難になった人のための医療です。患者さんの自宅や施設に赴き、必要な検査や治療を提供します。それまでに各診療科で受けていた処方や検査頻度などの情報を整理して、適切な形に調整していくのも在宅医療を行う医師の重要な役割です。緩和ケアや看取りにも対応します。ただし、診療所の設備や体制によって診療範囲が異なるため、事前の確認が必要です。



医療法人忠恕
春日部在宅診療所
ウエルネス

笹岡 大史 院長

医療機関の情報を詳しく！

P194

在宅医療ではどのような診療が受けられますか？

視診や触診、採血のほか、携帯型の検査機器を使って心電図検査や超音波検査も可能です。また、設備や体制によって異なりますが、やけどの治療や腹水の処置など幅広い症状に対応できる診療所もあります。このように在宅医療でも一通りの検査や治療ができますが、実はそれと同じくらい「医療が過剰になっていないか」の判断も重要です。各科で出された薬が重複していないか、その薬や定期的を受けていた検査は本当に必要なものなのか。情報をいったんまとめて適切な形に調整していくのも私たち在宅医療を行う医師の大事な役目。また、がんの終末期などでも痛みが強い場合には、それを緩和する処置を行いますし、最後の日まで患者さんを尊重し寄り添いながら、看取りにも対応します。

住み慣れた自宅で家族とともに
最後まで寄り添う在宅医療は
これからの時代に必要な医療

どういった人が在宅医療の対象になりますか？

年齢を重ねて通院が困難になってきた、病気で体が動かしにくい、がんの終末期など、通院が難しい状況にある人が対象です。気管切開や胃ろうのある小児も診療しますが、在宅医療の利用者としては高齢者の割合が多いですね。現在、国内の高齢者層は約3割に達し、団塊ジュニア世代が65歳以上となる「2040年問題」も無視できません。たった5分の診察を受けるのに半日かけ、複数の診療科で処方された大量の薬を毎日服用する。こうした状況は高齢者の体に負担が大きいため、薬を減らすことで元気になることも見込めます。生活背景も含め、患者さんの衛生状態から食事までを総合的に診る医療が求められる時代になり、在宅医療を必要とする人が今後ますます増えていくことは明らかでしょう。

在宅医療についての相談はどこにしたらいいですか？

すでに要介護の認定を受けているならば、担当のケアマネジャーさんに相談してください。介護保険の利用や訪問診療・看護、地域の情報にも詳しいので力になってくれると思います。入院中で「退院後に通えるか心配」という場合には、病院の地域連携室に相談するのが良いでしょう。そのほか、内科などかかりつけの先生に相談して在宅療養支援診療所を紹介してもらおうケースも。相談できる先生がいなければ、お住まいの市区町村の地域包括支援センターに問い合わせみてください。もし近くに在宅療養支援診療所があるならば、直接相談するのも一つの方法です。このように在宅医療につながる入り口はいくつも存在します。

そのほか、家族が知っておくべきことはありますか？

これまでの、高齢やがんの終末期になると病院に入院し、ご家族とのふれあいが少ないまま最期を迎えることが多かったように思います。ご自宅で看取りまで行う在宅医療は、ご家族にとっても家族の時間を大切にするいいきっかけになるでしょう。治療や看護は専門職が行いますが、次回訪問までの間は訪問看護師やホームヘルパーがご家族と協力しながら体を拭くなど介護を行います。「何日後には、また来てもらえる」という安心感が、ご家族の心にも余裕を生み出します。ただし、診療所ごとにできることが異なるためご注意ください。相談先に迷ったら、ホームページを見たり、近所の人に評判を聞いたたりしてみましよう。



1. 情報を共有することでスタッフ同士も助け合える環境に 2. 何かあればすぐに駆けつける体制も大切

Doctor's Advice

地域の専門職が力を合わせ 人生の下山をサポート

心理学者のユングは人生を山登りに例え、「登りきったら下りなければならない」と説きました。在宅医療を必要とする人は、まさに下山の最中です。そして在宅医療とは、医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャーなど地域の専門職が力を合わせて、患者さんが痛みや苦しみを感ずずに下山できるようサポートする医療。このような選択肢があることを皆さんに知ってほしいと思います。

Profile

笹岡 大史院長

1989年北里大学卒業。大学病院の循環器内科部長として急性期医療を担い、介護施設長も経験。思いやりに忠実である「忠恕(ちゅうじょ)」を理念とし、2018年に開業。介護関連の本も執筆し、多職種参加型のセミナーを主宰するなど在宅医療の文化拡大に努める。日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医。

春日部在宅診療所ウエルネス で受けられる診療

大学病院の循環器内科部長や介護施設長を経験してきた笹岡大史院長をはじめ、さまざまな専門分野を持つ非常勤医師やスタッフが活躍する同院。循環器内科、消化器外科、脳神経外科、放射線科、血液内科、麻酔科、遺伝基礎医学、緩和ケアなど専門知識を生かした在宅医療を提供できる体制を整えている。思いやりに忠実である「忠恕(ちゅうじょ)」を理念としており、患者の精神的な苦痛もケアできるよう、「人間学」を学ぶ職員勉強会も開催。訪問の際は、医師・看護師・相談員が同行して、治療や処置はもちろん、家族からの相談にも対応してこまやかなサポートを行う。一



▲患者が話しやすい雰囲気づくりを心がける

般的な検査のほか、常用薬の確認や調整、やけどの治療や腹水の処置など幅広い治療が可能だ。終末期治療を行う際には、患者や家族とじっくりと向き合い、対話を積み重ねながら進めている。

医療法人忠恕

春日部在宅診療所ウエルネス

内科／緩和ケア内科／小児科

笹岡 大史 院長

Sasaoka Taishi

北里大学卒業後、関連病院で研鑽を積み、同大学メディカルセンター臨床准教授に。大学病院の循環器内科部長として急性期医療を担う一方、精神科病院の内科医や介護施設長も務めた。2018年開業。介護関連の本も執筆。在宅医療の文化を育て、地域の笑顔を増やす医療をめざす。日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医。



治せない病気や障害とも向き合い 安心して人生を歩めるようサポート

介護つき有料老人ホームに併設された在宅療養支援所として、多世代の在宅医療を行う『春日部在宅診療所ウエルネス』。院長の笹岡大史先生は、大学病院の循環器内科部長を務め、心臓カテーテルなどの高度医療や急性期医療に最前線で従事。その後は介護施設長として、高齢者リハビリから看取りまで向き合った経験を持つ。

「小児科の外来でも、10年以上診療にあたりました。精神科病院では、精神科での認知症治療の課題も経験しています。こうした自分の多様な実績こそ、在宅医療で役立つ力になると考えます」と院長。高齢者に多い循環器疾患の急変の兆しを早期に察知することや、認知症患者への対応、定期的な医療ケアが必要な小児の診療、生活期リハビリ、緩和ケア、看取りなどに對し、今までの経験が大きな強みになっていると語る。

所属する医師たちも循環器内科や消化器外科、脳神経外科、放射線科、血液内科、緩和ケアなど幅広い専門性を持ち、加えて、ケアマネジャーといった地域の福祉職とも密に連携。これらの体制を生かし、「全身を総合的に診ること」と「患者の生活背景まで踏み込んだ支援」を在宅で実現しているこ

編集部 eyes

在宅医療の裾野拡大に力を注ぐ院長。多様なケアを実現するためには、この分野に携わる人材を増やし、かつ働きやすい職場環境を整えることが大切だといいます。「これからの医師は、社会がど

んな医療を求めているかを見極めていくことが大切ではないでしょうか」との言葉からは、社会全体の未来を見据えた上で在宅医療をさらに発展させていきたいという熱意が感じられました。



1 医師や看護師、相談員など多職種のスタッフが同院の診療を支える 2 春日部市を中心に、365日24時間対応できる体制を整える 3 持ち運び可能な検査機器を用いて、患者宅での検査も可能に



4 コミュニケーションを大切にし、患者と向き合う

とが同院の大きなポイントだ。「在宅医療は通院や待ち時間、ご家族のお見舞いの負担を減らし、安心して在宅医療を行う医師に相談できることで必要な対応の遅れを防げます。さらに、病院で安静重視で体を動かさず介護度が急になる事態も抑えられますし、入院を防ぐことでコスト面でも負担が軽減されることがあります」

**患者と家族に寄り添い
対話を積み重ねながら
精神的な苦痛にも向き合う**

同院の理念は、誠実で思いやりのあることを意味する「忠恕(ちゆじゅ)」

頼れるスタッフたち

「困ったときにすぐ相談できる専門家がそろう」ことは、患者や家族にとって大きな安心につながるだろう。同院には多様な専門性を持つ非常勤医師が所属。肉体的な苦痛から精神的・社会的な苦痛まで向き合う緩和ケアを専門とするベテラン医師も活躍している。特に高齢者に多い複合的な病気では、単独の医師では拾いきれないリスクを多角的にカバーできる点も強みだ。在宅医療が円滑に進むようケアマネジャーや訪問看護などとの連携も密に行い、多職種が集うセミナー開催など「顔の見える関係」づくりに注力。在宅医療開始後も必要に応じて病院と連携し、外来や入院につなげる体制をスタッフたちが支える。



うじょ)」。この言葉は日々診療にあたるスタッフ全員の中で共通認識としていっている。

「急性期医療に関わっていた頃は、目の前の病気を治すことに集中していました。しかし、長い人生を考えると『治す≠幸せ』という考えだけでは不十分だと思うようになりました」

患者の歩んできた人生を受け止め、その人がこれからどう生きれば幸せかを考えながら医療を届け、それが大切だと話す院長。安心につながる声かけや、小さな心配り、優しさを重ねることも欠かせない。また、終末期の場面でも、

患者と家族に寄り添い、丁寧に対話を積み重ねる。精神的な苦痛を少しでも和らげるような関わりができるよう、院内では「人間学」を学ぶ勉強会も行っている。

「治せない病気や障害と向き合いながら、安心して人生を歩めるよう伴走することも医療の役割です。患者さんの人生に寄り添い、未来の幸せと一緒に考えたい。治療だけでなく、いろんな相談を気軽に持ちかけてもらえる存在になりたいですね」と院長。在宅医療に特化した良質な医療の提供をめざす同院は、地域の包括的ケアにおいて重要な役割を果たしている。



Tel 048-792-0772

Add 春日部市内牧3701-1
エミナース春日部1F

Parking 有

Closed 木/日/祝

Map P183 C-3

関連記事 P048

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~18:00	●	●	●	—	●	—	—	—
9:00~12:00	—	—	—	—	—	●	—	—

※上記は訪問診療。外来は予約制



チラシ版はこちら

